

# ふれあい つながり かわら版

## 令和五年度の小中一貫本格スタート！ 第一回小中一貫教育推進担当者会の開催

五月十六日に、姫路市立総合教育センターと各中学校ブロックをオンラインでつなぎ、第一回の担当者会が開催されました。

豊富小中学校の畑本校長先生の開会挨拶では、自身が広嶺中ブロックで管理職として小中一貫を推進しておられた経験をお話いただきました。四郷学院の真砂教諭からは幹事長として、担当者会の本年度の重点「9年間を貫く特色ある教育課程『ブランドカリキュラム』を活用した実践を行い、より良いものへと改訂していく。」が示されました。四郷学院は、九月二十九日に「実践研究発表会」を開催予定です。分離型の義務教育学校としての実践は、各中学校ブロックにとって、そのまま取り入れることができる部分も多いので、楽しみにしててください。安室小学校の角倉校長先生の閉会挨拶では、ブランドカリキュラムの周知と活用の仕方について、自ブロックである安室中ブロックの本年度の小中一貫推進計画をもとにご示唆をいただきました。

各ブロックからの振り返りには、「ブランドカリキュラムを具体的にどのように活用していけばいいのか。」「ブランドカリキュラムの必要性や意義をもっと知りたい。」「という悩みも見られました。

下の資料は、令和二年に市内の全学校園に配布した「ブランドカリキュラム作成の手引書」です。ブランドカリキュラムがねらっていることや活用のヒント



姫路市教育委員会  
学校指導課  
小中一貫教育・ICT教育推進係  
(079)221-2120



トが掲載されていますので、今一度、手に取っていただけたらと思います。  
ブランドカリキュラムをこのように周知・共有していくか

### 校内研修・研究授業への位置づけ

- ・職員室に掲示する。全職員に配布する。
- ・校内研修担当と小中一貫教育担当が連携して、内容把握の研修を行う。
- ・校内研修で一人一授業を行う際にブランドカリキュラムの視点を入れる。
- ・年間指導計画の見直しの際にブランドカリキュラムに掲載されている単元に印をつけ、授業の際に意識できるようにする。
- ・本年度実践したものにチェックを入れていき、カリキュラムの修正・追記を行う。
- ・意識調査の学校独自の項目にブランドカリキュラムの項目を反映し、評価につなげる。
- ・各クラスにブランドカリキュラムを掲示し、児童生徒にも目指す姿を認識させる。
- ・オープンスクールでブランドカリキュラムを柱とした授業を一本は行うようにする。
- ・チラシ、ポスターを作成して校区に配布・掲示を行う。

### 児童生徒・保護者・地域への啓発

- ・四郷学院校内研修 四年生 国語科 九年生 数学科
- ・「対話を生かした授業づくり」

自ブロックの取組の参考にしてください！

### 四郷学院校内研修 四年生 国語科 九年生 数学科 「対話を生かした授業づくり」

五月十八日に、四郷学院にて、姫路大学 長谷教授を招聘して校内研修が開催されました。  
四年生 国語科「白いぼうし」の授業を真砂先生が、九年生 数学科「式の展開と因数分解」の授業を塩津先生が実践されました。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのアウトプット事例

授業者のお二人の先生は、表情豊かで、楽しそうに児童生徒に関わっておられたので、児童生徒が安心してアウトプットできる環境となっていました。紙面の都合上、ここで授業の詳細をお伝えすることは出来ませんが、上記のQRコードから、姫路市内の先生向けの「学校指導課学力向上サイト」に「アウトプット事例」として、掲載しておりますので、ぜひご覧ください。  
長谷教授からは、良かった点として、「保護者がこの授業を参観したら、きっと安心するだろう。前期から後期へ積み上げがあるから、グループにさっと分かれてスムーズに対話ができている。」と話されました。続けて、事後検討会の視点として「単元や本時の目標に達していたのか、達したとしたら何が効果的だったのか、そうでなければどうすれば良かったのかについて、学習者個人レベル及び学級レベルで、また短期・中期的視点で検討すること。」「そもそも目標はそれで良かったのか。」「目標に達した学習者の姿をどれだけイメージして授業に臨んだか、そのことが具体的に見える指導案になっていたか。」などを挙げられ、「これらのことはこれまで以上に授業のみとりも必要となるので先生方の納得された視点から取り入れられたらいかがでしょうか。」と付言されました。

### 四郷版 対話を生かした授業づくり (試行)

授業の流れ	授業づくりのポイント
課題の共有	①個人思考の時間の確保
個人思考	②対話の場の吟味(授業前に)
対話	③考えを聞き合い、深めさせる手立て
ふりかえり	④ふりかえりの充実

### 目指す子供像

夢を持ち続け、自己実現を図る子供

☆「聞く力」を意識

・授業だけでなく、教師の話、朝の会スピーチ、校内放送をとおして「相手の意図や話の中心をつかむこと」「相手の考えと比べて考えたり、感想を持ったりすること」の習慣をつける。